

『立命館人間科学研究』編集規程

1. 【目的】立命館大学人間科学研究所（以下、「研究所」という）は、研究所の成果を発信し、立命館大学（以下、「本学」という）における人間科学研究の興隆と人間科学の発展を目的として学術誌『立命館人間科学研究』（英文名：Ritsumeikan Journal of Human Sciences）（以下、「本誌」という）を発行する。
2. 【規程の性格】本規程は、『立命館人間科学研究』の編集・発行に関する重要事項を定める。
3. 【発行時期】本誌は、定期刊行物として原則として毎年度6月と12月に発行する。研究所編集委員会（以下、「編集委員会」という）が定める場合は、臨時に増刊して発行することができる。
4. 【編集体制】本誌の編集は、編集委員会が行い、編集長が統括する。
5. 【掲載内容】本誌には、人間科学研究の発展に寄与する論文等を掲載する。研究所の研究成果を主に、人間科学に関する基礎研究並びに応用・実践・臨床研究の成果を示す学術論文、研究所が主催又は共催する講演会等における講演録、本誌の編集方針・掲載論文に関する論評、人間科学についての論評、人間科学に関する書評、及び研究所の活動記録等を掲載する。
6. 【倫理規定】本誌に掲載する原稿は、研究実施・成果発表に関する倫理を遵守したものでなくてはならない。
7. 【著作権遵守】編集委員会は、受理した論文等が第三者の著作権を侵害することがないように留意するとともに、著者に対して著作権侵害の疑いがないことを確認する。
8. 【著作権】本誌に掲載される論文等は、「立命館大学人間科学研究所著作物取り扱いに関する申合せ」の適用を受ける。本誌に掲載された論文等の転載等詳細については、同申合せによる。
9. 【リポジトリ等】本誌の普及を図るため掲載論文の内容の一部あるいはすべてを、立命館大学機関リポジトリ、国立国会図書館、国立情報学研究所等が作成するデータベース等に提供する。ただし、編集委員会が特別の事情を認めた場合は公開しないことがある。
10. 【紙媒体・電子化】本誌は、印刷物として発行するとともに、電子ファイルを研究所ウェブ等により公衆送信する。
11. 【一号完結】掲載論文は一つの号で完結するものとし、分割して掲載することは原則として行わない。ただし、編集長が特別に認める場合は分割して掲載することができる。
12. 【言語】掲載原稿は、日本語又は英語とする。表題・著者名・抄録・キーワード、ならびに目次については日英両言語で誌名を構成する。
13. 【種別】本誌の掲載原稿は、投稿原稿と依頼原稿から構成される。依頼原稿については、編集委員会の議論をふまえて編集長が定める。
14. 【募集・投稿者】各号の発行計画に合わせ、期限を定めて投稿募集あるいは執筆依頼を行う。なお、本誌を特集号として編集する場合は、投稿募集を行わないことがある。投稿原稿は、以下に該当するものを受け付ける。
 - ① 研究所が実施するプロジェクト研究の一環として行われた研究の成果を示す論文
 - ② 本学専任の教職員・研究員およびそれに準じる者が著者又は共著者である論文
 - ③ 本学の大学院生、研究生、研修生等の身分にある者の単著又は共著論文であり、本学専任の教職員の研究指導と論文作成上の指導を経たことが明示されている論文
15. 【区分】本誌に掲載する投稿原稿には、付表1の区分と基準・制限字数を設ける。書評、論評、講演録等、これらの区分に該当しないと思われる原稿は、投稿を認めない。依頼によりそれらの原稿を掲載する場合は、編集長が適切な区分を用いる。投稿原稿の制限字数について、編集長が内容により若干の増頁を認めることができる。
16. 【論説】編集長は、本誌の編集方針の解説、掲載論文の解説、研究所における研究活動の促進などのために、論説を掲載することができる。
17. 【執筆要領】本誌に掲載する原稿の様式の統一のために、別途執筆要領を定める。原則として、本誌掲載のすべての原稿は、この執筆要領に従って作成されなければならない。本誌の学際性に鑑み、執筆要領は学術誌として不可欠な事項を中心とした簡潔で分かりやすいものとする。
18. 【受稿】執筆要領、制限字数を遵守し、本誌の趣旨に合致している投稿原稿については、受稿する。編集長は、執筆要領、制限字数から著しく逸脱しているもの、本誌の趣旨から明らかに外れている投稿原稿については、査読に付さずに却下することができる。
19. 【投稿論文の査読】受稿された投稿原稿については、付表1で指定されたものについて、論文審査（査読ならびに判定）を行う。査読に関する必要な事項は、別途編集委員会が定める。なお、査読を経た掲載論文については、その旨を誌面で明記する。判定とは掲載の可否を定めることをいう。
20. 【掲載の判断】編集長は、査読のある原稿についてはその結果をふまえ、査読のない原稿については、必要に応じ編集委員の意見を聴取したうえで、投稿原稿の受理・掲載不可・修正原稿作成・投稿区分変更の提言等の扱いを判定し、これを投稿者に通知する。

21. 【再査読の免除の特例】 論文審査を経て修正が行われた投稿原稿が、査読者の指摘に適切に対応したものであると認められる場合、編集長は改めて査読に付さず受理することができる。
22. 【受理後の処理・著者校正】 受理された投稿原稿は、印刷工程に入る。印刷工程においては、内容上の修正は認められない。すなわち、著者校正は、誤字・脱字等、誤植の訂正のみに限定され、本文の追加・修正等は認められない。著者校正は、原則として再校までとする。
23. 【別刷】 掲載原稿については別刷を作成し、著者に 50 部を贈呈する。それ以上の部数の作成については、著者の実費負担とする。
24. 【執筆料】 本学関係者（本学の教職員並びに大学院生・研究生・研修生等）以外の者に編集委員会から執筆を依頼した場合にかぎり、学内基準に従って執筆料を支払う。

付則

1. 本規程の改廃は、人間科学研究所『立命館人間科学研究』編集委員会が行う。
2. 本規程は、2013年4月1日に施行し、本誌第29号から適用する。
3. 本規程の施行に伴い、現行の『立命館人間科学研究』執筆・投稿規定は廃止する。
4. 本規程の一部改定は、2013年5月20日に施行し、本誌第29号から適用する。
5. 本規程の一部改定は、2013年6月21日に施行し、本誌第30号から適用する。

付表1

区分	基準	審査	制限分量
原著論文 (Original Articles)	実証的あるいは論考的研究に基づく未発表の独創的な論文で、先行研究をふまえ、学術的に妥当な方法論に則って新しい知見を提出しているもの	査読をふまえて、編集長の判定によって行われる	和文 20,000 字 英文 8,000 words
展望論文 (Reviews)	特定の研究主題や分野に関する研究成果の概説と論評、研究の現況と課題など、当該研究の啓蒙と啓発に寄与する内容の評論であって、未発表のもの	査読をふまえて、編集長の判定によって行われる	和文 23,000 字 英文 9,000 words
実践報告 (Practical Research)	応用・実践・臨床の現場における研究の経過や事例研究の成果など、当該分野における実証的研究の進展に寄与する内容の報告であって、未発表のもの	査読をふまえて、編集長の判定によって行われる	和文 14,000 字 英文 6,000 words
実践と論考 (Practice & Discussion)	当該分野における実証的あるいは論考的研究への新たな示唆や問題提起等を含む論文であって、未発表のもの。調査研究の報告、新たに開発された研究方法の紹介等、学術的価値の認められる資料論文を含む。	必要に応じ編集委員の意見を聴取したうえで、編集長の判定によって行われる	和文 11,000 字 英文 4,500 words

※ 字数には表題・図表・注・引用文献を含み、和英抄録を含まない。ただし、文字としてカウントできない図表は、大きさにより以下のように文字数換算してカウントする。
1/4 ページ相当：400 文字、1/2 ページ相当：800 文字、1 ページ相当：1600 文字。

『立命館人間科学研究』 投稿規程

1. 『立命館人間科学研究』（以下、「本誌」という）は、「『立命館人間科学研究』編集規程」第15条で定める付表1にある論文で、かつ以下（ア）～（ウ）の区分に該当する論文の投稿を受け付ける。
（ア）研究所が実施するプロジェクト研究の一環として行われた研究の成果を示す論文
（イ）本学専任の教職員・研究員およびそれに準じる者が著者又は共著者である論文
（ウ）本学の大学院生、研究生、研修生等の身分にある者の単著又は共著論文であり、本学専任の教職員の研究指導と論文作成上の指導を経たことが明示されている論文
2. 投稿者は、投稿応募時に、所定の書式により、論文の区分を明示して応募することとする。なお、第1条で定める（ア）と（ウ）の区分について、論文が掲載された場合は、その旨を脚注等で明示すること。
3. 本誌への投稿論文は、他に未発表の日本語および英語の論文に限る。ただし、学会等で口頭発表したものについては、その限りではない。
4. 本誌に投稿することができる論文は、研究上の一般的な倫理および研究主題に関連した倫理を遵守したものに限る。掲載にあたり、投稿者はこれに関する所定の誓約書を提出しなければならない。
5. 著者は、個人情報保護への配慮等に十分注意して投稿原稿を作成しなければならない。
6. 原稿の執筆に際して、著者は、剽窃はもとより、日本語または外国語による他の著作物から当該の言語のまま引用あるいは他の言語に翻訳して引用する場合であっても、第三者の著作権が侵害されることのないよう、最大限留意しなければならない。
7. 投稿者は、「『立命館人間科学研究』編集規程」によって定められた投稿論文の区分を明確にして投稿するものとする。その際、投稿基準をよく理解し、制限頁数および制限字数を遵守しなければならない。
8. 投稿原稿は、本投稿規程ならびに「『立命館人間科学研究』執筆要領」を遵守して執筆されていなければならない。
9. 投稿原稿は、1つの完結した論文でなければならない。複数号にわたり分割して掲載することを前提とした投稿原稿は、原則として認められない。
10. 投稿を希望する者は、各号の投稿募集時に、著者、表題等必要な事項を記して応募しなければならない。投稿者は、所定の原稿提出締切日までに、投稿原稿を、人間科学研究所事務局に届けなければならない。審査の過程において区分が変更される場合、本項に定める応募を行っていたとみなすものとする。
11. 本誌に掲載される著作物は、「立命館大学人間科学研究所著作物取り扱いに関する申合せ」の適用を受ける。掲載にあたり著者（共同執筆者を含む）は、著作権に関わる所定の書面を提出しなければならない。
12. 投稿原稿は、Microsoft Wordで作成したファイルデータを記録した電子媒体とともにA4版用紙に印字したものを2部提出する。提出された原稿は返却しない。
13. 投稿原稿には、本文（表題、見出し、小見出し、注、参考文献、図表）とは別に、1投稿区分、2表題、3著者名、4所属・職名を、日本語及び英語（著者名はローマ字表記）で明記した表紙ならびに表題、日本語抄録（400～500字程度）、英文抄録（250～300ワード程度）、日英両言語による3～5項目のキーワードを記載した別紙を添付する。本文および別紙には、本文中に投稿者が明らかになる氏名・所属等の情報を記入しないこととする。
14. 投稿原稿の受理は、編集規程に従って編集長が判定する。査読に付された投稿原稿については、受理にいたらない場合、査読の結果をふまえて修正原稿を投稿する機会が著者に与えられる場合がある。この場合、著者は、査読者の指摘への対応方針ならびに投稿原稿における修正箇所・内容の一覧とともに、修正した論文を指定された期限までに提出しなければならない。著者と査読者の間の意見交換は、すべて人間科学研究所事務局を通し、原則として文書（電子メールを含む）により行う。
15. 論文が受理された後には、内容の修正は行えない。
16. 印刷は編集委員会で定める様式にしたがって行う。図表の配置等、印刷紙数の都合で著者の要望に応えられない場合がある。印刷は原則として白黒印刷とする。カラー印刷を希望する場合は、その実費について著者負担が発生することがある。
17. 校正は、誤字・脱字等、誤植の訂正のみを行い、本文の追加・修正等はできない。著者校正は、原則として再校までとする。
18. 掲載原稿の著者には、別刷50部を贈呈する。それ以上の部数を希望する場合は、投稿申込の際に著者の申し出によって行うことができる。その場合の実費は投稿者が負担する。

付則

1. 本規程の改廃は、人間科学研究所『立命館人間科学研究』編集委員会が行う。
2. 本規程は、2013年4月1日に施行し、本誌第29号から適用する。
3. 本規程の施行に伴い、現行の『立命館人間科学研究』執筆・投稿規定は廃止する。

Editor-in-chief	MATSUDA Ryozo	(Director, Institute of Human Sciences/College of Social Sciences)
Associate Editors	INOUE Akira	(Steering Committee Member, Institute of Human Sciences/Graduate School of Core Ethics and Frontier Sciences)
	TSUCHIDA Noriaki	(Steering Committee Member, Institute of Human Sciences/College of Letters)
Editors	AKIBA Takeshi	(Steering Committee Member, Institute of Human Sciences/College of Social Sciences)
	ASADA Kazushige	(Steering Committee Member, Institute of Human Sciences/Graduate School of Law)
	INABA Mitsuyuki	(Steering Committee Member, Institute of Human Sciences/College of Policy Science)
	MASUDA Rika	(Steering Committee Member, Institute of Human Sciences/Graduate School of Science for Human Services)
	MATSUBARA Yoko	(Steering Committee Member, Institute of Human Sciences/Graduate School of Core Ethics and Frontier Sciences)
	MOCHIZUKI Akira	(Steering Committee Member, Institute of Human Sciences/College of Letters)
	MURAMOTO Kuniko	(Steering Committee Member, Institute of Human Sciences/Graduate School of Science for Human Services)
	NAKAMURA Tadashi	(Steering Committee Member, Institute of Human Sciences/College of Social Sciences)
	OTANI Izumi	(Steering Committee Member, Institute of Human Sciences/College of Social Sciences)
	TANI Shinji	(Steering Committee Member, Institute of Human Sciences/College of Letters)
	TOKUDA Kanji	(Steering Committee Member, Institute of Human Sciences/Graduate School of Science for Human Services)
	YAMAMOTO Kohei	(Steering Committee Member, Institute of Human Sciences/College of Social Sciences)
	YATO Yuku	(Steering Committee Member, Institute of Human Sciences/College of Letters)
Guest Reviewers	HAMADA Sumio	(Nara Women's University)
	ITO Kenichi	(Faculty of Social and Information Studies, Gunma University)
	KOBAYASHI Tetsuro	(School of Human Sciences, Kobe College)
	KOUGAMI Keita	(Department of Care and Welfare, Osaka College of Social Health and Welfare)
	MINAMIDE Yoshinari	(Faculty of Regional Studies, Gifu University)
	MINO Koji	(College of Social Welfare, Tokyo University of Social Welfare)
	OHTSUKI Tomu	(Faculty of Human Sciences, Waseda University)
	OZAWA Wataru	(College of Social Sciences, Ritsumeikan University)
	RO Xiaotong	(Faculty of Child Science & Education, Teikyo University of Science)
	SHOJI Reika	(Graduate School of Education, University of Yamanashi)
	TAMAKI Emi	(College of Social Sciences, Ritsumeikan University)
	TANAKA Mari	(Master's Program in Psychology, Tokyo Seitoku University)
	TERASAWA Eriko	(Faculty of Humanities, Sapporo Gakuin University)
	WATANABE Kazuhiro	(School of Law, Senshu University)
Editorial Secretaries	NAMBA Shinobu	(Secretariat, Institute of Human Sciences)
	OGINO Junko	(Secretariat, Institute of Human Sciences)
	KATAYAMA Shiro	(Secretariat, Institute of Human Sciences)

編集委員長 松田亮三 (人間科学研究所所長・産業社会学部)
副編集委員長 井上彰 (人間科学研究所運営委員・先端総合学術研究科)
土田宣明 (人間科学研究所運営委員・文学部)

編集委員 秋葉武 (人間科学研究所運営委員・産業社会学部)
浅田和茂 (人間科学研究所運営委員・法務研究科)
稲葉光行 (人間科学研究所運営委員・政策科学部)
増田梨花子 (人間科学研究所運営委員・応用人間科学研究科)
松原洋 (人間科学研究所運営委員・先端総合学術研究科)
望月昭 (人間科学研究所運営委員・文学部)
村本邦子 (人間科学研究所運営委員・応用人間科学研究科)
中村正 (人間科学研究所運営委員・産業社会学部)
大谷いづみ (人間科学研究所運営委員・産業社会学部)
大谷晋二 (人間科学研究所運営委員・文学部)
徳田完平 (人間科学研究所運営委員・応用人間科学研究科)
山本耕 (人間科学研究所運営委員・産業社会学部)
矢藤優子 (人間科学研究所運営委員・文学部)

ゲスト・レビュアー 浜田寿美男 (奈良女子大学)
伊藤賢一 (群馬大学・社会情報学部)
小林哲郎 (神戸女学院大学・人間科学部)
鴻上圭太郎 (大阪健康福祉短期大学・介護福祉学科)
南出吉祥 (岐阜大学・地域科学部)
三野治 (東京福祉大学・社会福祉学部)
大月友 (早稲田大学・人間科学学術院)
小澤亘 (立命館大学・産業社会学部)
呂曉彤 (帝京科学大学・こども学部)
東海林麗香 (山梨大学大学院・教育学研究科)
玉置えみ (立命館大学・産業社会学部)
田中真理 (東京成徳大学・心理学研究科)
寺沢美理子 (札幌学院大学・人文学部)
渡邊一弘 (専修大学・法学部)

編集幹事 難波しのぶ (人間科学研究所・事務局)
荻野純子 (人間科学研究所・事務局)
片山詩朗 (人間科学研究所・事務局)